

厚生労働科学研究費補助金
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究（H24 - 精神 - 一般 - 009）
平成25年度東海ブロック

分担研究者 山田 和雄
名古屋市立大学脳神経外科教授

研究要旨

高次脳機能障害者の地域生活支援について、「東海ブロック連絡協議会」を開催することで、ブロックとして各県の実情を検討し、意見交換をする。それによって、地域にあった支援ネットワークの構築に必要な点を検討する。
ブロック各県が持ち回りで、「東海ブロック連絡協議会」を主催するとともに、事例検討会などを開催することで、各県の支援力アップを図る。
各県の高次脳機能障害支援の補う部分に関し、科研費をその一助とする。

A. 研究目的

東海ブロックにおける各県の支援力強化、ネットワークの構築にむけて、実情や手法を検討する。

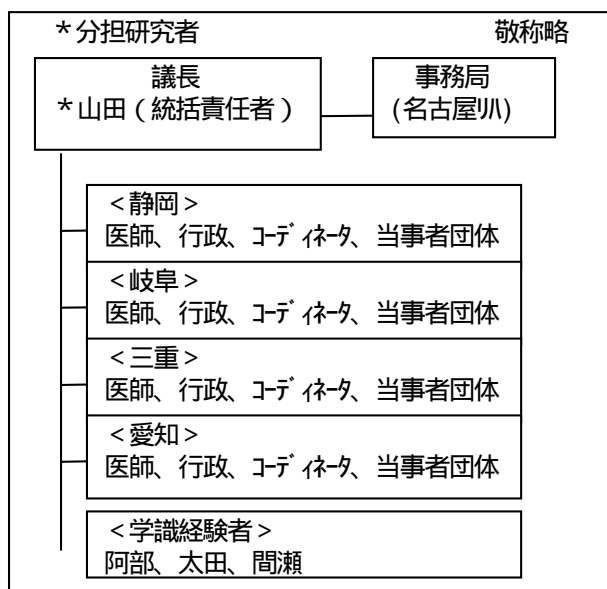
B. 研究方法

- 平成18年度から東海ブロック4県（静岡、岐阜、三重、愛知）の高次脳機能障害に携わる行政担当者、医師、支援コーディネーター、家族会代表、および学識経験者による東海ブロック連絡協議会（議長：分担研究者）を設置。それ以降、このメンバーが参加する意見交換・研修の場を設け、年に1-2回継続して開催している。平成25年度は三重県において連絡協議会を開催した。

<東海ブロック連絡協議会委員>

	氏名	所属等
<議長>	山田和雄	名古屋市立大学大学院 / 分担研究者
学識経験者	阿部順子	岐阜医療科学大学
"	太田喜久夫	藤田保健衛生大学病院
"	間瀬光人	名古屋市立大学大学院
<静岡県>		
医師	片桐伯真	聖隷三方原病院
行政	鈴木弥生	静岡県健康福祉部精神保健福祉室
支援コーディネータ	坂口英夫	障害者生活支援センターくぬぎの里
当事者団体	滝川八千代	NPO法人高次脳機能障害サポートネットワークしずおか
<岐阜県>		
医師	篠田淳	木沢記念病院、中部療護センター
行政	丹羽伸也	岐阜県精神保健福祉センター
支援コーディネータ	宇津山志穂	木沢記念病院
当事者団体	西村憲一	NPO法人脳外傷友の会長良川
<三重県>		
医師	園田茂	七栗サナトリウム病院
行政	堀山由実	三重県障害者相談支援センター
支援コーディネータ	田辺佐知子	三重県身体障害者総合福祉センター
当事者団体	古謝由美	三重TBIネットワーク
<愛知県>		
医師	深川和利	名古屋市総合リハビリテーションセンター
行政	梅村文彦	愛知県健康福祉部障害福祉課
支援コーディネータ	長谷川真也	名古屋市総合リハビリテーションセンター
当事者団体	星川広江	NPO法人高次脳機能障害支援「笑い太鼓」理事

<東海ブロック連絡協議会の構成>



2. 持ち回りで行う連絡協議会により、各県が抱えている課題などを検証する。また、各県の高次脳機能障害者支援の実情に合わせ、独自のセミナーの開催による広報・啓発や研究などを行う（各々の県の啓発活動や研究は各県報告参照）。

C. 研究結果

1. H25 年度東海ブロックの活動

(1) 東海ブロック連絡協議会の開催

日時：H26.2.2（日）10:00～12:00

会場：四日市市総合会館（四日市市）

参加：約 40 名

委員 20 名

中島八十一国立障害者リハビリテーションセンター学
院長、白山靖彦徳島大学大学院教授(科
学識経験者)、東川悦子 NPO 法人日本脳外
傷友の会理事長、各県アドバイザー

内容：高次脳機能障害者の就労支援について
～現状と課題～

東海 4 県（静岡、岐阜、三重、愛知）の
H25 年度実績報告と併せて

報告内容の確認、検討

- ・年 1～2 回、東海 4 県の委員および学識経験者で構成する連絡協議会を開催、各県の支援について学び、あり方の参考としている

三重県「第 25 回高次脳機能障害者地域支援セミナー」を同日午後開催

(2) その他の活動

- ・東海ブロック全体での研究のほか、東海 4 県で分担して、各県の高次脳機能障害者支援に関わる研究費として運用している
- ・各県の高次脳機能障害者支援については、地域に即したかたちで専門的相談支援、連携に向けた取り組み、広報・啓発活動などを実施している。

2. 各県の25年度活動状況（詳細は各県資料）

静岡県

(1) 支援体制

<支援拠点機関>

圏域名	支援拠点機関
賀茂・熱海伊東圏域	オリブ ((0558)43-3131)
駿東田方圏域	障害者生活支援センターなかいずりハ ((0558)83-2195)
富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545)35-5589)
静岡志太榛原圏域	障害者地域サポートセンター北斗 ((054)278-7828)
中東遠・浜松圏域	ナルド ((053)437-4609)
県全体	聖隷三方原病院((053)439-9046)
	高次脳機能障害者サポートネットしずおか ((054)622-7405)

<支援コーディネーター> 18名

(2) 実績

拠点機関直接相談数（件）		
来所	978	
電話・メール等	2,400	
訪問	874	
拠点機関間連携数（件）		
来所	112	
電話・メール等	803	
訪問	247	
活動実績（回）		
連絡会・協議会	主催 9	協力 25
研修会・講習会	主催 7	協力 26
ケース会議・勉強会・ 家族交流会等	主催 106	協力 152

(3) 今後について

- 医療機関での障害の見落としの予防
- 支援従事者、一般県民の障害理解のための啓発
- 関係機関による地域支援ネットワークづくり
- 支援の地域間格差の解消にむけた取り組み
- 新しい動きの効果的な活用
- 高次脳機能障害に特化した障害者自立支援法による就労移行支援・自立訓練（生活訓練）
- 事業所の開設や高次脳機能障害者の就労継続を支援するナイトサロンの開催など

岐阜県

(1) 支援体制

- 支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター
- 支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院

- ・支援コーディネーター：1名 支援拠点病院に配置
- ・支援体制：圏域ごとの支援体制の整備を推進しており、県として協力医療機関12ヶ所と地域支援協力機関4ヶ所を指定している。

(2) 実績

- ・拠点機関相談数；来所77件 訪問24件 連絡等50件
- ・拠点機関連携数；来所0件 訪問0件 連絡等116件
- ・連絡会・協議会；主催2回 講師等協力5回
- ・研修会・講習会；主催4回 講師等協力2回
- ・ケース会議・勉強会等；主催5回

(3) 今後の課題

- ・支援ネットワークの活動の充実
協力医療機関と圏域コーディネーターの連携がまだスムーズではない。協力医療機関ごとの仕組み・役割分担が違うため、それぞれの医療機関に適した圏域コーディネーターへのルートを作る必要があるのではないかと。
- ・相談支援機能の補充
圏域にはそれぞれの特色があり、可能な支援と困難な支援がある。現在は各コーディネーターが研修会や圏域コーディネーター会議を通してスキルを高めているが、今後はその機関で足りない機能をどう補うかが課題である。また、コーディネーターは兼務のため連絡などにすぐ対応できないことも多い。コーディネーター以外の職員にも事業や障害のことをより理解、協力してもらう必要が生じている。
- ・精神症状や行動障害のあるケースの行政や精神科医療との連携、作業訓練や日中活動の場の拡充
圏域コーディネーターは、精神症状があるケースや利用する通所施設を探す必要があるケースを通じて、地域の行政担当課・精神科医療機関・通所施設と連絡をとる機会が出てきている。ケースの積み重ねにより受け入れ機関(連携機関)の増加、実際に受け入れている施設の職員を講師による研修会などを通して、普及啓発を図れるとよい。

愛知県

(1) 支援体制

- ・支援拠点機関：名古屋市総合リハビリテーションセンター
- ・支援コーディネーター：3名
- ・支援体制：拠点機関の特徴としては、『総合拠点方式』と『開放型循環システム』があげられ、高次脳機能障害者の訓練・支援に有効に機能している。

(2) 実績

- ・拠点機関相談数；来所1483件 訪問74件 連絡等555件
- ・拠点機関連携数；来所106件 訪問96件 電話等333件
- ・連絡会・協議会 主催3回 講師等協力 3回

- ・研修会・講習会 主催5回 講師等協力29回
- ・ケース会議 主催48回 講師等協力36回
- ・勉強会等 主催 9回 講師等協力2回

(3) 平成26年度方針

現状と課題

高次脳機能障害者の累積的增加への対応

<名古屋リハ受診前>

- ・相談数の増加 患者の多様化、診断書のみへの依頼等

<名古屋リハ訓練終了後>

- ・家族の高齢化等、支援者の不在化による生活の崩れ
- ・就労継続者の長期的支援の不十分さ

地域での支援体制の確立が必要。そのため、24年度から名古屋リハ内に『地域支援システム検討委員会』を設置した。

<新たな展開>

- ・愛知県の圏域会議(11 圏域/除名古屋市)における高次脳機能障害の周知
- ・尾張西部圏域、知多圏域などを重点圏域としての位置づけ これまでの経緯から研修を実施。さらにケースを通じた支援力アップを図っている
- ・H24 年度からの制度改革に伴い、相談支援センターの計画策定段階の高次脳機能の課題が浮き彫り、それに対する拠点機関の関わり方の充実による支援力のアップを図る
- ・名古屋リハの機能拡充 障害者就労支援センター、基幹支援センター、地域活動H支援センターの設置
- <従来から実施>
- ・『高次脳機能障害関連施設連絡会』『名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会』等の継続的開催
- ・啓発活動の継続的展開
- ・ABIA(愛知県脳損傷協議会)との恒常的連携
ABIA の愛知県高次脳機能障害者社会復帰促進事業の展開、ABIA 運営施設への訓練委託、等

三重県

- ・支援拠点機関：三重県身体障害者総合福祉センター

(1) 三重県高次脳機能障がい者生活支援事業

概要=包括的リハビリテーション

三重県モデルと称し、高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援(地域生活)をシステムチック(systematic)に包括的リハビリテーションを行い、ネットワークを構築するもの
拠点病院との連携

松阪中央総合病院=主に急性期リハを担当、診断・外来による認知リハ及び三重県モデルを通過したケースのアフターフォローを実施

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム=主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、入院による認知リハを実施

三重県身体障害者総合福祉センター

神経心理学的評価および認知リハ、職業リハを実施。高次脳機能障害者(児)を配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく下記の3つになる。

- ・県内の相談窓口
- ・医学・生活・社会・職業リハビリテーションを担当
- ・普及・啓発
医療機関との連携強化

(2) 主な事業内容

- ・相談支援体制連携調整委員会の開催
H25.7.19、H26.3.19
- ・普及・啓発
高次脳機能障害者支援セミナー
H26.2.2 四日市市総合福祉会館
テーマ：高次脳機能障害者への支援～社会的行動障害～ / 講師：白山靖彦氏(徳島大学大学院) 坂口秀夫氏(静岡県支援コーディネーター) 加藤俊宏氏(NPO法人「笑い太鼓」)
高次脳機能障害者(児)リハ講習会の開催支援
H25.9.16(南勢地区)
講演会、講習会の講師=9回

(3) 実績

- ・拠点機関 相談件数：1169件(電話相談除く)
新規実数：67名

(4) 身障センターの帰結(H13~H26年度)

- ・訓練終了者：265名
雇用就労・就学：86名(32.4%)
福祉就労：58名(22.0%)
福祉サービス：43名(16.2%)
在宅・ほか(就労待機、再訓練等)：78名(29.4%)

D. 考察

高次脳機能障害支援普及事業、厚生労働科学研究が開始された平成18年度以降、東海ブロック各県においては、それぞれの地域性はあるものの、不足部分については地域のネットワーク等により補完しあい、それぞれの支援機関においては支援力をアップさせることで、高次脳機能障害者の支援体制を充実させてきた。

一方で、高次脳機能障害の周知、各県の支援体制がボトムアップするにつれて、新たな問題も表面化されてきている。各県の課題を列挙すれば方針とも重なる。

なお、平成24年度からの「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」において、東海ブロック連絡協議会はこのような課題を確認・検証する場として機能し、また各県に分配している科研費は地域にお

ける高次脳機能障害者支援の研究および普及に寄与している。

E. 結論

各県の成果は、各県活動報告に詳細記載。

なお、厚生労働科学研究については、上記考察で述べたとおりで、高次脳機能障害者支援に寄与するものであるだけに、今後も継続されることが望まれる。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

別紙各県活動報告・研究成果刊行物参照。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。